

# 心理的安全性と成果を両立させる全体最適の プロジェクトマネジメントの研究(クラス 2) —助け合い・意見を自然と生むための マネジメント手法の研究— アブストラクト

## 1. はじめに

昨今プロジェクトの成果を出すことや、メンバーのパフォーマンスを高めるため「心理的安全性」が注目されている。本分科会メンバーのプロジェクト現場目線では、成果が上がっているプロジェクトは「助け合いや意見が自然と生まれている状態」ということを導き出した。そこで、我々は「助け合いや意見が自然と生まれるチームにするための具体的なマネジメント手法をリーダーに提供し、それを実践することによって心理的安全性を高めることができる」ことを仮説として立てた。

## 2. 研究手順

研究手順は、「現状把握」、「要因分析/対策立案」、「実践・評価」の3フェーズに分けて行った。はじめに現状把握フェーズを設け、本分科会メンバー企業(8社)に対してアンケートを行い、『現場目線の生の声』を収集する。続く要因分析/対策立案フェーズでは、阻害要因の特定、打ち手の検討、ガイドライン作成を行う。最後に実践・評価フェーズにおいて、チームビルディングガイドラインを用いた検証を行い、有効性の評価、仮説検証を行う。

## 3. マネジメント手法立案

現状把握フェーズとして分科会メンバー各社でアンケートを実施し、約2~3割が助け合い等に関して課題意識があることが分かった。要因分析フェーズとして、プロジェクトの阻害要因は「プロジェクトメンバーが悩んでいることが分からない」「発言しにくい状況や雰囲気になってしまう」「担当範囲の線引きを行う」の3点を導き出した。対策立案フェーズとして、これらの阻害要因を深堀し、解決アプローチを定め、7つの打ち手を策定した。それらは、「エントリ制お悩み相談会」、「何でも掲示板」、「日次の会話できる場」、「1on1 ミーティング」、「言い換えワード、シーンの読み合わせ」、「Good Job カード」、「担当(チーム)横断コメント表」である。また、各社で起き得るプロジェクトの具体的なシーンに応じて、7つの打ち手から効果的なものを導き出せるガイドラインを作成し、分科会メンバー各社にて適用する。適用後のアンケートでは、総じて実践前と比較し、良好な傾向がみられ、助け合いや意見が自然と生まれるための手法として有効であると検証できた。

## 4. 仮説検証

実践フェーズとしてガイドラインのマネジメント手法を分科会メンバー各社にて適用することで、心理的安全性が高まるか検証する。ガイドラインの適用後に心理的安全性の7つの質問を用いて、アンケートを実施し向上度合いを測定する。評価フェーズとして、各打ち手において平均値では効果ありが7件中6件、最大値では大いに効果ありが7件中4件、効果ありが7件中3件であり、ガイドラインのマネジメント手法を実践することで、心理的安全性を高めることに寄与したと考える。

## 5. おわりに

我々が作成したガイドラインのマネジメント手法を実践し、助け合いや意見が自然と生まれるチームにすることによって心理的安全性を高め、メンバーのパフォーマンスを向上させることを実証した。今回作り上げたガイドラインを各社持ち帰ってリーダーに渡して実践し、心理的安全性が高まったことの定量的な効果だけでなく、実際にチーム状態が改善した手応えを掴み、またパフォーマンスが向上することも確信した。各プロジェクト現場でリーダーが取り組むチームづくりに生かしていただきたい。